共通テーマのユースケースに関する考察

　報告者　氏名　河上　皓汰

1. 共通点

・AIを利用した評価

　多くのユースケース図において、AIが口コミを自動認識し、評価するという仕組みが共通している。この評価は、口コミがステマかどうかを判断する目的で行われ、最終的には評価値としてユーザーに提示される。

・ユーザーが口コミページを開く

　すべてのユースケース図において、ユーザーが特定の商品に関する口コミページを開き、そのページをAIに自動認識させる流れが書かれている。

・評価結果の表示

　口コミページをAIに自動認識させた後、ステマかどうかの評価結果を数値あるいはメッセージとしてユーザーに提示され、判断のための参考情報として使用されるプロセスが書かれている。

2. 相違点

・ユーザーの役割の違い

　ユースケース図によってユーザーを「消費者」「購入者」あるいは「アプリ利用者」など、表記名が異なっている。このアプリが使用するユーザーの役割によっては、口コミページを評価する際の意図や使い方に差異が生じ、アプリの使用目的、ターゲット層が変わると想定される。

・評価の表示方法

　ユースケース図より、評価値が数字であったり、メッセージであったり、表示形式が口コミ横に表示される、画面にポップアップ表示される、別ページに遷移して表示されるなど、評価結果の提示方法が異なっており定まっていないことがわかる。この違いはUI設計時に影響を与え、操作性や視覚的な印象に関わると考えられる。

3. まとめ

　今回の共通テーマとなったソフトウェアの大まかな流れとして、ユーザーが口コミページを開き、AIに自動認識させ、ステマかどうかを判断させることで、ユーザーが参考情報を得ることができるといったものである。しかし、どういったユーザーに対してソフトウェアを利用してもらうか、AIの評価結果をどのようにユーザーに対して表示するかが各ユースケース図では異なっており、ソフトウェア提案時点では曖昧な部分であることが分かった。この違いは設計時に影響を与えるため、ソフトウェアの目的に合わせて機能を定める必要があると考えた。

4. 参考文献

　共通課題UC.pdf